

2019年1月20日

## 福音書からのメッセージ

イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

(ヨハネによる福音書2章11節)

ガリラヤのカナでおこなわれた婚礼に、イエス様と母マリア、そして弟子たちが招かれたときの話です。その婚礼の途中で、ぶどう酒が足りなくなりました。わたしたちの感覚では、それじゃあこの辺でお開きにしましょうで済みそうですが、そうもいかなかったようです。

というのも当時の婚礼は、七日間ほど続くのが普通だったそうです。またある程度出入りは自由だったので、後から来る人に振る舞うぶどう酒を途中で切らさないようにしないといけなかったのです。

その状況を目にして、イエス様の母は、イエス様に「ぶどう酒がなくなりました」と伝えます。その言葉を聞いたイエス様は母とのやり取りのあと、召し使いたちに外に置いてあった水がめに水を満たすように告げます。そして召し使いたちは、言われた通りに水を満たしました。この水がめのサイズですが、聖書には2ないし3メートル入りと書いてあります。1メートルは30~40リットルですから、60~120リットル入りの石でできた水がめが、6つも並んでいたということです。ちなみに120リットル入りのポリバケツの大きさは、直径60cm、高さは66cmほどもあるそうです。子どもたちがかくれんぼで使えそうな大きさです。

この大きな水がめに満たされた大量の水が、ぶどう酒に変わる。しかし聖書を読んでいますと、イエス様が水に対して何か言ったり、手をかざしたりといったことは書かれていません。また水がぶどう酒に変わった瞬間についても言及がありません。



つまり、この物語が一番伝えたかったことは、水がぶどう酒になったという単なる驚きの奇跡行為ではないのです。

この話は、飲み水をぶどう酒に

変えた奇跡物語ではありません。水は水でも、変えられたのはユダヤ人が清めのために用いる水でした。「清め」という言葉によって、中にいる人たちと外の人たちを分離する、外の人たちに対して壁を作る、自分たちとは違う人たちを排除する、清めの水はそのような役目を果たしていました。

それがぶどう酒に変えられたのです。それも水がめ6つ分という大量の水が、良質のぶどう酒に変えられたわけです。あふれんばかりの喜びに、恵みに満たされる。ついさっきまで人と自分たちとを分け隔てするために用いられていた水が、すべての人を招きにつこりとさせるぶどう酒にかえられる。イエス様はその恵みの賜物を与えるためにやってきた。これがイエス様がおこなわれたしるしなのです。

すべての人に、このぶどう酒はふるまわれました。イエス様に信仰を告白したかどうか、悔い改めたかどうか、まったく関係ありません。尽きることのない恵みがまず、すべての人に与えられたのです。そしてその祝宴は今も続いているのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>